

別紙3 非機能要件一覧

No	大項目	中項目	メトリクス（指標）	要求目標等	補足説明等
1	可用性	継続性	RPO（目標復旧地点） （業務停止時）	平常時、業務停止を伴う障害が発生した際には、障害発生時点（日次バックアップ+アーカイブ※からの復旧）までのデータ復旧を目標とすること。	RPO：業務停止を伴う障害が発生した際、バックアップしたデータなどから情報システムをどの時点まで復旧するかを定める目標値。
2			RTO（目標復旧時間） （業務停止時）	平常時、業務停止を伴う障害が発生した際には、1営業日以内でのシステム復旧を目標とすること。	RTO：業務停止を伴う障害（主にハードウェア・ソフトウェア故障）が発生した際、復旧するまでに要する目標時間。
3			RLO（目標復旧レベル） （業務停止時）	平常時、業務停止を伴う障害が発生した際には、すべてのシステム機能の復旧を目標とすること。	RLO：業務停止を伴う障害が発生した際、どこまで復旧するかのレベル（特定システム機能・すべてのシステム機能）の目標値。
4			システム再開目標（大規模災害時）	大規模災害時、システムに甚大な被害が生じた場合、システムは、一ヶ月以内に再開することを目標とすること。	
5			稼働率	年間のシステム稼働率は、99.5%を目標とすること。	
6	性能・拡張性	業務処理量	ユーザ数	利用者数は、不特定多数のユーザが利用できること。	
7		性能目標値	通常時オンラインレスポンスタイム	通常業務時のオンラインレスポンスタイムは、3秒以内を目標とすること。	オンラインレスポンスタイム：オンラインシステム利用時に要求されるレスポンス。 システム化する対象業務の特性を踏まえ、どの程度のレスポンスが必要かについて確認する。アクセスが集中するタイミングの特性や、障害時の運用を考慮し、通常時・アクセス集中時・縮退運転時ごとにレスポンスタイムを決める。

別紙3 非機能要件一覧

No	大項目	中項目	メトリクス（指標）	要求目標等	補足説明等
8			アクセス集中時のオンラインレスポンスタイム	業務繁忙等によるアクセス集中時のオンラインレスポンスタイムは、10秒以内を目標とすること。	
9	運用・保守性	通常運用	運用時間（平日）	平日運用時間は、24時間利用を前提とすること。	
10			運用時間（休日等）	休日運用時間は、24時間利用を前提とすること。	
11			外部データの利用可否	データ復旧の際、外部データは利用できないとすること。	外部データ：他システム、第三者提供データ、個人バックアップ（USB）等 セキュリティ及び真正性の確保のため、復旧処理においては、外部データに依存せず、当該システム内に保管されたデータのみを使用するものとする。
12			バックアップ取得間隔	バックアップの取得間隔は、日次で取得すること。	
13			監視情報	エラー監視（トレース情報を含む）を行うこと。	
14		保守運用	OS等パッチ※適用タイミング	OS等のパッチについては、緊急性の高いパッチは即時に適用し、それ以外は定期保守時に適用を行うことを目標とする。	OS等パッチ情報の展開とパッチ適用のポリシーに関する項目。OS等は、OS、ミドルウェア、その他のソフトウェアを指す。
15		セキュリティリスク管理	ウィルス定義ファイル適用タイミング	システム脆弱性等に対応するためのウィルス定義ファイルについては、定義ファイルリリース時に実施すること。	
16	データの秘匿	蓄積データの暗号化の有無	蓄積データの暗号化については、ベンダーによる提案事項とすること。		
17	不正追跡・監視	ログの取得	ログの取得については必要なログを取得すること。		